

# 県民センター ニュースレター



2月21日 女川原発再稼働反対署名  
第5次提出 ひまわりの会提出者

第26号 2014年2月28日

発行：東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目5-10-305 TEL022-399-6907 fax022-399-6925

http://www.miyagikenmin-fukkoushien.com/ E-mail:miyagi.kenmincenter@gmail.com

## この号の内容

- ① 女川原発再稼働反対署名 第5次提出
- ② 女川原発「検討委員会」の設置を
- ③ 今、に求められていること
- ④ 福島並み事故で 県内被害甚大

## 女川原発を再稼働反対署名 第5次提出 署名数10万筆を突破 広がる反原発の声

当県民センターは原発問題住民運動宮城県連絡センター（略称：原発センター）とともに女川原発を再稼働させず、原発からの撤退を求める署名活動を進めています。

2月21日（金）に、第5次提出分12,561筆を県に提出しました。これにより、今までの提出筆数は10万筆を突破し、108,431筆となりました。目標数は30万筆ですが、10万を突破したことで、この日の提出行動に参加した県内各地からの再稼働に反対する団体の方々から、運動の拡がりを喜ぶ声があがりました。

提出行動では、県民センターをはじめ、女川原発の再稼働に反対する会（涌谷町）、女川原発の廃炉をめざす泉区西部の会：略称ひまわりの会（仙台市）等から、県に対して署名者の思いを添えながら提出しました。

ひまわりの会では、この間みやぎ生協の店頭で署名活動を進めて、すでに7,086筆（2月21日段階）の署名を集めています。2～3月だけで生協店頭署名回数は7回を計画。さらには、3月8日（土）には「原発ゼロ3.8泉アクション」を区内10団体が参加して、午後2時30分から開催することとしています。会場は泉中央公園。集会後はイズミティ21・地下鉄泉中央駅など区役所周辺をデモ行進する予定です。

## 3月16日にみやぎアクション開催

福島原発事故を忘れない  
女川原発再稼働を許さない！

2014みやぎアクション

# 3.16 NO NUKES みやぎ

日時：2014年3月16日（日）

開催場所：錦町公園（仙台市青葉区本町2-21）  
雨天決行

- ・第一部ライブパフォーマンス 13:00～
- ・第二部 野外集会 14:00～
- ・アピール行進 15:00～
- ・ブース出展 13:00～15:00

特別ゲスト  
武藤類子さん（福島原発告訴団・団長）  
佐々木功悦さん（前美里町長）



【主催】女川原発の再稼働を許さない！2014みやぎアクション  
（代表：鈴木宏一 仙台市弁護士会会長）

【協賛】※あいっす会  
女川原発再稼働を許さない会 / 女川原発の廃炉を求める大連連絡会 / 原発問題住民運動宮城県連絡センター  
さようなら原発in!のまき2014実行委員会 / 自由法曹団宮城県支部 / 生活協同組合あいっすみやぎ  
東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター / 宮城県選挙平和センター

【問い合わせ】TEL&FAX:022-5735-7000（鶴岡）  
mail:ihag07314@nifty.ne.jp（館内）  
ブログ: http://dkazenokai.blog.fc2.com/



女川原発の再稼働に反対する会  
（涌谷町）提出者



第5次提出署名 1万2561筆

## 女川原発の安全性の検討のため 「専門家による検討委員会」設置を

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、原発が本質的な危険性を有するものであること、いったん大事故が起これば取り返しのつかない大きな被害を及ぼすことを示しました。県民の命と財産を守るために、女川原子力発電所の再稼働には安全性、設備健全性に関する慎重かつ十分な検討が必要です。

### 女川原発のダメージ検証は必須

女川原発は、東日本大震災で被災した特殊な原発です。女川原発で記録された最大加速度は「はぎとり解析」した結果、女川原発の3.11前の最大想定を上回る636ガルとなっています。福島第一原発で記録された最大加速度が448ガルですから、福島原発よりも大きな揺れに見舞われたこととなります。福島原発事故では津波が到達する以前に配管が破断して、それが大事故に至る契機になったと指摘する科学者・技術者も多数おります。核燃料がメルトダウンした福島原発の内部は現在でも放射線量が高いため、被害状況の検証も事故経過の確認も出来ないままです。女川原発と同型の沸騰水マークI型である福島第一原発の窮故原因の解明は、女川原発の安全性を検討するためにも前提となるものです。福島原発よりも大きな加速度に襲われた女川原発がどれくらいのダメージを受けたのか徹底的に検証する必要もあります。

女川原発は旧耐震設計審査指針のもとで最強地震動が250ガル、限界地震動が375ガルとして設計、建設された原発です。この想定地震動を越える地震に今回も含めて3回も見舞われ、そのたびに大きなダメージを受け続けています。今回東北電力は、女川原発の基準地震動を1000ガルに見直すとしていますが、1000ガルの想定で十分なのか、もともと250ガルで設計された施設全体を1000ガルの地震動に耐えられるように補強出来るのかについても慎重に検討する必要があります。

### 新潟県ではすでに「独自の検討委員会」を設置

住民の命と安全を守る地方自治体としての責務を果たすため、原発の再稼働にあたっては知事職に同意権が与えられています。柏崎刈羽原子力発電所が立地する新潟県は、同意権を適切に行使するために、2003年に「新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会」という独自の検討委員会を設置しました。そして2007年の新潟中越沖地震で柏崎刈羽原子力発電所が大きな被害を受けて以降は、この委員会のもとに「設備健全性、耐震安全性に関する小委員会」と「地震、地質、地盤に関する小委員会」を設置し、再稼働の是非についてさらに詳細に検討して来ています。

福島原発でのシビアアクシデントが起これば、女川原発も東日本大震災で大きなダメージを被った現在、県民の命と安全・財産が確実に守られるようにするために、宮城県にも独自の安全性検討委員会を設置する必要があります。

国の原子力規制委員会が行う「新規制基準適合性に係る審査」を慎重に見守ることは必要ですが、それとは別に宮城県独自のダブルチェックも大事ですから、利害関係の無い優れた専門家を招いて女川原発の安全性と健全性を検討する委員会を早急に設置することが必要です。

県民センターと原発センターでは新潟県のような「検証委員会」設置を求めています。

## 被災者の医療・介護の免除再開

# 今、県にもとめられていること

昨年3月末で打ち切られた「被災者医療・介護負担の免除措置」が4月から一部再開されます。これは仮設住宅自治会長さんたちの請願運動や、国会要請行動、支援する市民団体や医療団体の運動がなければ実現できなかったことでした。

しかし4月からの免除対象者は、免除のための資格要件が昨年3月までより狭まったため、県全体で昨年3月までのおよそ4分の1、仙台市では12%となってしまう、満足のものではありません。被災者は今、住まいの再建を前にして、医療費の負担が重くのしかかっています。4月からの消費税8%への増税とそれに伴う公共料金の値上げ、年金の更なる引き下げ、70歳～74歳の医療費の2割負担、後期高齢者医療の保険料の引き上げが行われ、生活はますます大変になります。

財政補てんがない後期高齢者医療や介護保険については、広域連合や各市町村の負担が重く、後期高齢者医療は再開予定ですが、介護保険については自治体間の格差が生まれる懸念があります。

そのような問題を打開するため、仮設住宅自治会長さん、市民団体、市長会および町村長会、後期高齢者医療広域連合協議会などから宮城県に対し県の財政支援を求める要請が出されています。

## 今、県に求められていること

こうした状況のなかで今、県に求められていることは、全ての市町村で被災者医療費の一部負担金免除が確実に実施されること、また、被災者の生活再建が進むためにも、岩手で行っているように県と市町村が2分の1ずつ負担するなど力を合わせて免除対象からはずされる人をできるだけ少なくすることです。そして後期高齢者医療一部負担金と介護保険利用料も全市町村で確実に免除が実施できるように、県が必要な財政支援を行うことです。

### 「第56回自治体学校 in 仙台」プレシンポ

日時：3月8日（土）  
午後1時～5時  
会場：東北大川内北キャンパスC棟200番教室  
講演：「被災地から考える復興・減災」（塩崎賢明氏：立命館大教授）「原発災害から住民の命を守る」（馬場有氏：浪江町長）  
シンポ：被災地から「この国のかたち」を正す（塩崎賢明氏・馬場有氏・飯塚正広氏・佐藤力也氏・岡田知弘氏・中嶋信氏）  
資料代1000円

## 東日本大震災3周年メモリアル企画のご案内

### ■3.11 メモリアルデー 鎮魂のひろば（石巻住まい連）

日時：3月11日（火）午後2時開会  
会場：カフェ ら・めーる駐車場（石巻市松原町2-19）  
鎮魂の歌 コンブリオ合唱団・コカリナ合奏団「キッコロの詩」  
集い終了後、カフェ ら・めーるで歌声喫茶 参加費500円

### ■日本障害フォーラム宮城（JDF宮城）

日時：3月9日（日）午後4時30分～  
会場：シルバーセンター 第二研修室  
要事前申し込み（3月5日締め切り）  
問い合わせ：JDF宮城事務局（☎080-4373-6078 事務局池田）

### ■守ろう！子どもたちのいのち・未来二周年の集い（女性ネットみやぎ）

日時：3月22日（土）午後1時30分～  
会場：フォレスト仙台2階第7会議室  
講演：鎌仲ひとみさん「原発は、もうたくさんだ」  
11時30分から、同会場で「内部被ばくを生き抜く」DVD上映  
参加費500円



## 民間版「スピーディ」でシミュレーションしてみたら 福島並み事故で 県内は甚大被害

原発問題住民運動宮城県連絡センター（略称：原発センター）が、榊環境総合研究所からシミュレーションシステムを購入し、その結果を2月27日に開催された講演会で公表しました。このシステムはシステム精度に定評のあるもので、地形や気象条件を考慮にいれ、風向き等により、どの方向に、どこまで放射能被害が及ぶかを具体的に予測し、図示できます。

原子力規制委員会の事故時シミュレーションは、地形を考慮しない無意味なもので、宮城県の「防災計画」もその前提にたったものです。

下図は女川原発で「福島第一原発事故と同程度の放射能放出があったもの」とし、全域を降雨による沈着範囲（湿性沈着、フォールアウト）として計算した結果です。気象条件は東北東の風1m/sという条件。

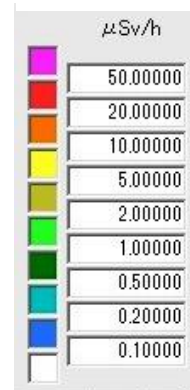
### いったん事故が発生すれば、放射能被害は県内広く及ぶ

一見して、放射能被害は仙台市をはじめ宮城県土の半分以上に及ぶことが解ります。いったん女川原発で事故が発生したら、福島原発の被害を大きく越えた、取り返しのつかない事態が発生することになるでしょう。原発センターや当県民センターではこうしたデータを示しながら、県民の命と安全を守るための新たな議論を呼びかけています。（2ページ参照）

（このシミュレーションの結果に関わる著作権は榊環境総合研究所が有しています。同研究所の許可なく、複製したり、配布したり、転載することはできません。）

原発センターではシステム購入資金（30万円）を集める募金に取り組んでいます。一口千円で何口でも募金できます。お問い合わせは、原発センター（☎022-234-1335 高教組内桜井まで）

色毎の汚染量



環境総合研究所 原発事故時想定シミュレーションシステム Super AIR3D/NPP

空間線量率 宮城県・女川 発生強度(100%) 東北東風 1m/s 経過(1日)

